



食品輸入事業者の自主管理

輸入加工食品の自主管理に関する 輸入者等説明会

(社) 日本輸入食品安全推進協会
平成20年6月

① 当協会について

◎設立 平成4年9月

◎目的と経緯

輸入食品の安全性確保を図ることにより、消費者の信頼性の確保と公衆衛生の向上に寄与することを目的として、輸入事業に携わる有志企業が集まり、当時の厚生省のご支援、ご協力を得て設立。

◎会員数 101社（平成20年6月現在）

食品メーカー、輸入商社、食品流通、通関業
検査機関 等。

② - 1 協会の活動について

◎主な活動

1、「輸入食品衛生管理者制度」を運営。

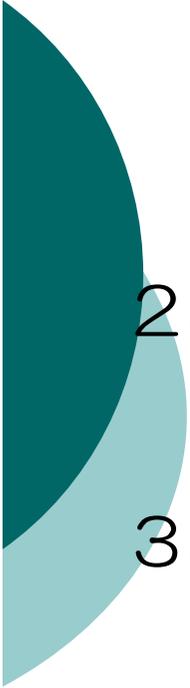
事業者の自主管理体制の確立、推進の為の人材育成が目的。

東京と大阪で講習会を開催し **輸入食品衛生管理者**を養成。

(毎年11月に3日間の開催)

平成20年度で第17回目。これまで約2000名が資格取得し、輸入食品に係わる企業や各現場で活躍中。

平成20年度の講習会は**11月に東京、大阪で開催予定**。詳しくは当協会ホームページ (<http://www.asif.or.jp>)をご覧ください。



② - 2 協会の活動について

- 2、安全性確保のための人材育成、教育
 - ・勉強会、セミナー、説明会、展示会など。
- 3、食品安全情報の収集と発信
 - ・行政、業界情報の発信（ASIF情報）。
 - ・輸入食品に関する図書出版（食品添加物インデックス、Q&A食品輸入ハンドブック等）
- 4、広報、相談、その他
 - ・検疫所への協力。
 - ・厚労省、農水省、東京都の審議会、リスコミへの参画。
 - ・各種食品団体、海外機関との交流。
 - ・食品輸入に関する問い合わせに対応。



③-1 輸入食品の現状、問題

○近年の輸入食品の現状、自主管理の必要性

- ・ 量的な増加が進む→社会構造、ライフスタイルの変化
- ・ 質的な変化も進む→完成品や高度加工品の増加
- ・ 輸入食品の多様化→種類、形態、健康志向、グルメ
- ・ 輸入調達先の拡大→食のグローバル化、経済性
- ・ 流通～加工経路の複雑化
 - 消費者からよく見えない→不安
- ・ 各国規格基準の違い、食文化の違い
 - 違反→検査強化→消費者不安
 - 世界統一基準への動き

③-2 輸入食品の現状、問題

消費者の不安

- ・ 自分で現地が見えない、確認できない。
- ・ マスコミの事件報道が大きな情報源。
- ・ 専門的なことはよくわからない。
- ・ 数字に弱い。
（〇倍を検出→これは大変と不安に）
- ・ 安かろう、悪かろう、不信 ？

不安の解消を！

行政に改善策を要望！

事業者に自主管理の徹底を求める！！

④-1 輸入食品安全対策に係わるトピックス

輸入品の違反事例、海外での事件等を受けて

- 官民合同会議 (2007.7.20)
 - ・全国検疫所説明会 (2007.7.30~8.7)
 - ・日中政府担当者会議 (2007.8.6)

中国産ギョウザ食中毒事案を受けて

- 3府省からの防止策通知 (2008.2.1)
 - ・食品団体が事業者にアンケート
 - ・関係閣僚会合 (2008.2.22)
 - ・自主管理ガイドラインを公表 (2008.6.5)
 - ・全国検疫所説明会 (2008.6.16~6.27)

⑤-1 協会会員へのアンケート調査実施

安全確保のためにこれまで実施してきたこと

- ・取引開始前の現地調査。（設備。管理体制）
- ・規格基準の相互確認。（文書等）
- ・加工・製造後の現地管理データの確認。
抜き取り検査による安全確認。
- ・現地と食品安全、法規制等についての情報の共有化。工場への定期巡回。
- ・日本人技術者の派遣、現地工場担当者教育。

⑤-2協会会員へのアンケート調査実施

今回の事案を受けて、緊急的に取り組んだこと

- ・ 該当商品がないか取引先および流通を確認。
- ・ 類似商品の再検査、在庫品の安全確認。
- ・ 取引先の経営者の姿勢、労務管理、有毒・有害物質の管理等についても調査。
- ・ 流通段階、保管場所等の安全確認、再調査。
- ・ 顧客や消費者からの問い合わせ対応。
- ・ 安全確認済みの社告等、情報開示。

⑤-3協会会員へのアンケート調査実施

今後取り組む必要がある、予定すること

- ・ 生産から消費者までの各行程における管理・監視体制の見直し、再構築。
- ・ 今後、労務管理、薬剤管理、包装不良品の全品チェック、人為的不正対策等も強化する。
- ・ 検査拡大、駐在員の増員、巡回強化。
- ・ リスク分散（生産拠点の他国へのシフト）

⑤-4 協会会員へのアンケート調査実施

今後の課題、問題点

- ・ 人為的不正への防御対策が困難。
- ・ 検査品目、検査項目、検査頻度等への比重のかけ方が難しい。→ 費用対効果
- ・ 安全にかけるコストアップ（検査、管理者、設備等）を製品価格に転嫁しにくい。
- ・ 他国と調達競争する中での、安全追求。
- ・ 商習慣、国民性、食品安全への考え方等が異なる中で、信頼関係の醸成が困難。
- ・ 各国規格基準のハーモナイゼーション。

⑥-1 事業者の自主管理

- 違反や事故を食品業界全体の問題として
 - ・輸入者は個人経営から大企業まで、対応力や考え方にそれぞれ違いがある。
 - ・しかし、一度事件になると、違反企業だけにとどまらず、業界全体が影響を受ける。
 - ・最終的に、消費者にも迷惑が及ぶことにもなる。
 - ・誰も得をしない。

中国産ギョウザ事案によると思われる
「冷凍食品」「加工食品」「中国産食品」の
回避、消費減退が市場で起きた。

⑥-2 事業者の自主管理

